県民意見の収集状況について（中間状況）

資料１－１

１　平成31年２月18日までの意見の収集状況

平成30年12月７日時点での回答は54件であったが、平成31年２月18日時点では合計203件の回答が集まっている。

各項目の考察は下記のとおり。＜詳細は資料１－２＞

１．現在の状況に係るアンケート

・　以前と比較したバリアフリーに関する印象についてのアンケートであるが、12月時点での回答と比較すると多くの項目で「進んでいる」、「やや進んでいる」の割合が減り、「変化はない」の割合が増えている。

・　また、（１）～（３）については社会の状況の方が「進んでいる」、「やや進んでいる」という回答の割合が多く、特に（１）（２）については、概ね20％の差が生じている。一方（４）については地域と社会の状況に大きな差は見られなかった。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 地域の状況 | 社会の状況 |
| （１）バリアフリー全般に対する理解 | 進んでいる　　　　 4％  やや進んでいる　　40％  （小計）　　　　　44％  ※　変化はない　　40％ | 進んでいる　　　　 7％  やや進んでいる　　56％  （小計）　　　　　63％  ※　変化はない　　26％ |
| （２）施設整備のバリアフリー化 | 進んでいる　　　　 6％  やや進んでいる　　46％  （小計）　　　　　52％  ※　変化はない　　38％ | 進んでいる　　　　 8％  やや進んでいる　　64％  （小計）　　　　　72％  ※　変化はない　　20％ |
| （３）障がい者、高齢者等の外出しやすさ | 進んでいる　　　　 7％  やや進んでいる　　36％  （小計）　　　　　43％  ※　変化はない　　45％ | 進んでいる　　　　 8％  やや進んでいる　　42％  （小計）　　　　　50％  ※　変化はない　　41％ |
| （４）心のバリアフリー（※） | 進んでいる　　　　 8％  やや進んでいる　　42％  （小計）　　　　　50％  ※　変化はない　　41％ | 進んでいる　　　　 8％  やや進んでいる　　42％  （小計）　　　　　50％  ※　変化はない　　41％ |

（※）様々な心身の特性や考え方を持つすべての人々が、相互に理解を深めようとコミュニケーションをとり、支え合うこと

２．社会状況の変化や新たな取組みに関するアンケート

・　提案書作成時以降の事柄についてのアンケートだが、「声かけ・サポート」運動については６割以上の回答者が言葉の意味を知っていたが、そのほかの単語については５割以上の回答者が言葉の意味を知らないという結果であった。しかしながら、どの言葉についても今後の進捗については７割以上の回答者が「積極的に進めたほうがよい」と考えており、また、言葉の周知が必要であるという意見が多く寄せられた。

・　12月時点での回答と比較すると「積極的に進めたほうが良い」の割合が減り、「現状で十分である」の回答が増えている。

・　12月時点と同様に「合理的配慮」「障がいの社会モデル」「インクルーシブ教育」といった単語の意味の難しさを挙げる意見が依然として見られた。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | （１）言葉の意味 | （２）今後の推進について |
| 問２－１  合理的配慮 | 知っていた　　41％  知らなかった　59％ | 積極的に進めた方がよい　88％  現状で十分である　　　　10％  その他　　　　　　　　　２％ |
| 問２－２  障がいの社会モデル | 知っていた　　29％  知らなかった　71％ | 積極的に進めた方がよい　86％  現状で十分である　　　　10％  その他　　　　　　　　　３％ |
| 問２－３  インクルーシブ教育 | 知っていた　　28％  知らなかった　72％ | 積極的に進めた方がよい　75％  現状で十分である　　　　19％  その他　　　　　　　　　６％ |
| 問２－４  「声かけ・サポート」運動 | 知っていた　　62％  知らなかった　38％ | 積極的に進めた方がよい　87％  現状で十分である　　　　11％  その他　　　　　　　　　２％ |

３．現在の進捗状況と今後の取組みに関するアンケート（提案書の進捗状況について）

・　問３－１は現在の提案書の進捗状況を尋ねたものである。

・　「（１）バリアフリー教育の充実」については全体では「進んでいる」、「やや進んでいる」という回答の小計が５割程度となっている。

・　「（２）多様な人が住まう「街」への気づき、障がい者理解の推進」については４割程度となっている。

|  |  |
| --- | --- |
| （１）バリアフリー教育の充実 | 進んでいる　　　　　５％  やや進んでいる　　　46％  （小計）　　　　　　51％  ※　変化はない　　　41％ |
| （２）多様な人が住まう「街」への気づき、障がい者理解の推進 | 進んでいる　　　　　４％  やや進んでいる　　　36％  （小計）　　　　　　40％  ※　変化はない　　　53％ |

・　「（３）安心して出かけられる「街」になっているか」との問いについては「進んでいる」、「やや進んでいる」という回答の小計が３割程度であり、前述の「（１）バリアフリー教育の充実」「（２）多様な人が住まう「街」への気づき、障がい者理解の推進」よりも低い。なお、（３）の質問の小項目の結果を見ると、「②駅舎、道路、公共交通機関等のバリアフリー化」、「④商業施設、福祉施設、学校等の多くの方が利用する施設のバリアフリー化について」については「進んでいる」、「やや進んでいる」という回答の小計が５割～６割であるのに比べ、「①マップなどのバリアフリー関連情報の充実について」については、「進んでいる」、「やや進んでいる」という回答の小計が２割程度と低い結果となっている。

|  |  |
| --- | --- |
| （３）安心して出かけられる「街」になっていると思うか。 | 進んでいる　　　　２％  やや進んでいる　　29％  （小計）　　　　　31％  ※　変化はない　　48％ |
| （３）①マップなどのバリアフリー関連情報の充実について | 進んでいる　　　　２％  やや進んでいる　　21％  （小計）　　　　　23％  ※　変化はない　　54％ |
| （３）②駅舎、道路、公共交通機関等のバリアフリー化の推進について | 進んでいる　　　　５％  やや進んでいる　　46％  （小計）　　　　　51％  ※　変化はない　　36％ |
| （３）③災害時を見据えたハード整備（分かりやすい案内板など）や、高齢者や障がい者等の要配慮者への災害時の支援体制の整備について | 進んでいる　　　　２％  やや進んでいる　　30％  （小計）　　　　　32％  ※　変化はない　　46％ |
| （３）④商業施設、福祉施設、学校等の多くの方が利用する施設のバリアフリー化について | 進んでいる　　　　３％  やや進んでいる　　51％  （小計）　　　　　54％  ※　変化はない　　39％ |

・　（４）では神奈川県みんなのバリアフリー街づくり条例を知っているか尋ねたが、「知っている」と答えた回答者は３割程度であった。

・　「（５）施設整備の際、障がい当事者の参加（意見の反映）」については、「やや進んでいる」の回答が３割に満たず「変化はない」の回答が５割を超えていた。

|  |  |
| --- | --- |
| （５）施設整備の際、障がい当事者の参加（意見の反映）が進んでいると思うか。 | 進んでいる　　　　２％  やや進んでいる　　24％  （小計）　　　　　26％  ※　変化はない　　55％ |

・　問３－２はこれからの取組みについて尋ねたものであるが、全ての項目について８割以上が「積極的に進めた方がよい」という回答であった。

・　全体を通じて12月時点より「現状で十分である」の回答が増えており、進める上での課題において、様々な障がいへの個々の対応の難しさ、財政上の問題等が依然として挙げられた。

|  |  |
| --- | --- |
| （１）児童・生徒だけでなく、大人や地域の人にもバリアフリー教育を進めることについて | 積極的に進めた方がよい　93％  現状で十分である　　　　６％  その他　　　　　　　　　１％ |
| （２）建築や保健医療の専門家に、バリアフリーや障がい者等への理解を深めてもらうことについて | 積極的に進めた方がよい　91％  現状で十分である　　　　９％  その他　　　　　　　　　０％ |
| （３）地域での話し合いに障がい者が参加できる環境づくりを進めることについて | 積極的に進めた方がよい　90％  現状で十分である　　　　９％  その他　　　　　　　　　２％ |
| （４）視覚や聴覚など障がいに応じた情報保障（点字、拡大文字、見やすい配色、手話等）をさらに進めることについて | 積極的に進めた方がよい　93％  現状で十分である　　　　７％  その他　　　　　　　　　０％ |
| （５）高齢者や子育て世帯など様々な人に向けたバリアフリー情報をお互いに共有できるようにすることについて | 積極的に進めた方がよい　87％  現状で十分である　　　　13％  その他　　　　　　　　　０％ |
| （６）バリアフリー施設の優良事例や取組みを紹介したり、奨励するなど、バリアフリー社会への積極的な取組みをさらに一般に周知させることについて | 積極的に進めた方がよい　86％  現状で十分である　　　　13％  その他　　　　　　　　　１％ |
| （７）施設の計画段階から障がい当事者が参画するなど、施設のバリアフリー化に向けた取組みをさらに進めることについて | 積極的に進めた方がよい　90％  現状で十分である　　　　９％  その他　　　　　　　　　２％ |
| （８）様々な心身の特性や考え方を持つすべての人々が、相互に理解を深めようとコミュニケーションをとり、支え合うという「心のバリアフリー」の普及をさらに進めることについて | 積極的に進めた方がよい　92％  現状で十分である　　　　７％  その他　　　　　　　　　１％ |

４．その他「バリアフリーの街づくり」に対する意見（12月以降の回答から一部抜粋）

施設整備や普及啓発の必要性、自治体や企業の取組み事例など多くの意見が寄せられた。以下その一部を要約して抜粋した。

・　公共施設等の計画には当事者を参加させ、よりよい街づくりを図ってほしい。

・　分かりやすい物理的な改善があるとバリアフリーが実感できると思う。

・　バリアフリーに積極的な自治体・企業とそうでないところの差がとても大きい。

・　バリアフリー対応するために負担が増える場合も考える必要がある。

（意見の特徴）

○　課題や今後必要なものを尋ねるにあたり、各項目に自由記述欄を設けたが、12月時点での回答と同様、どの項目においても普及啓発活動の必要性を挙げる意見が寄せられた。

○　また、その人の個性、属性に個々に対応することの重要性、難しさを挙げる意見も多く寄せられた。